

麻生区区民会議 第3回 (仮称) 市民活動・絆づくり検討部会 議事要旨

1 開催日時：平成29年2月23日(木) 午後3時～午後5時

2 開催場所：麻生区役所第3会議室

3 出席者：[専門部会委員]

池松勝年委員、植木昌昭委員、緒方保委員、海崎眞委員、佐藤昇平委員、佐野幸子委員、鈴木隆広委員、関根秀勝委員、高橋慶子委員、松田通委員

[事務局] 企画課 井上課長、福島係長、榎本 [コンサルタント] 中島

4 傍聴者：1名

5 議事

1. 企画部会からの報告について

- ・池松部会長より、第2回企画部会の内容が報告された。

2. 調査・審議課題の検討について

(1) 第2回部会の振り返りについて

- ・前回の議事確認のため、前回部会の内容を振り返った。
- ・本日の獲得目標を確認した。

(2) 審議テーマの検討について

1) 審議テーマの検討について

- ・第2回で一定の合意を得たテーマ(案)「活動参加による仲間づくり・絆づくり・地域づくり」に対する意見は出なかったため、同テーマの担い手と対象について検討を行った。

2) 地域活動の担い手と対象について

【決定事項】

- ・当部会の審議テーマの内容として「ボランティア」と限定せず、「地域活動」とする。
- ・担い手については総論的には年齢・性別に限らない「地域全体」としつつ、実現性の観点から各論的な具体手法の検討の上では、シニアを重点的な対象とすることとした。
- ・貢献する相手・対象については人だけでなく、緑や教育なども含めた地域に関わるもの全てとした。

【主な意見】

- ・テーマ(案)のようなサイクルを回していくためには、高齢者や弱者だけではなく、若者もサラリーマンも母親も全ての人に関与する形が望ましい。ボランティアに限らず、父親による少年野球のお手伝いも社会貢献であり、地域づくりである。元気なシニアは担い手としては中心であるが、そこに限らず、すべての人が担い手であると自覚することが重要であり、そのためにも参加しやすさという意味で、貢献の対象を高齢者や弱者に絞る必要はないのでは。

- ・実現性という意味では先頭に立ってやる人を重点的に想定することも重要ではないか。
- ・担い手も対象にしても、限定せずに地域内の誰でも参加しやすくした方が良い。
- ・概念的には、担い手や対象を限定しない方が良いと思うが、パイロット的に、講座等を実施する場合にはシニア向けといったふうに絞る必要もあるのではないか。
- ・概念的なものは総論として考えればよい。そこで共通認識が得られれば、各論として具体的な実行方法等について議論すべきではないか。
- ・あまり難しい話をしてしまうと、実際の活動参加の制約になると思うので、誰にでもわかりやすく参加しやすい仕組みについて検討する必要がある。
- ・ボランティアをあまり前に出すとハードルが高くなるため、シニアから若者まで幅広い市民活動、地域活動を対象とした方が良い。
- ・みんなが担い手という理念は持ちつつ、現実的な部分でシニア層を重点的な担い手とすればよい。
- ・シニアの定義に問題はあるが、基本的には定年後どのように生きていくかということが問題となる。そういう世代になったらという程度の理解で良いのではないか。

3) 審議の方向性について

- ・地域活動に参加するための動機やきっかけをどう作るかが今後の議論となる。
- ・本日出された主なアイディアは以下の通りである。
 - 仲間づくりを身近にする切り口の検討の必要性
 - キャッチフレーズ等のPR手法の必要性（地域活動の効果、地域活動の担い手の役割等）
 - 仲間づくりの場に関する検討の必要性（アクティブシニア講座やこずぎの大学といった場の検討）
 - 人材の掘り起こしの必要性（地域コーディネーターや自治会活動等）
 - 情報提供の必要性

【主な意見】

- ・サイクル内の地域づくり（社会貢献）という部分に達したときにボランティア概念が出てくると思うので、今回は仲間づくりから切り口としてはどうか。
- ・各論として第一にシニアが対象というのはそれで良いが、現役世代にとっても、仲間づくりというきっかけがあれば地域に入ってくるようになるのではないか。若い世代や現役世代とも繋がらないとサイクルにはならない。
- ・活動参加が健康に良いということをPRする必要があるのではないか。
- ・やまゆりで行ったアクティブシニア講座のようなもので仲間づくりをテーマに考えてはどうか。
- ・住んでいるところから活動を始められる（子どもの見守り等）と良いのではないか。趣味の活動や、自治会・町会活動がきっかけになっても良い。
- ・仲間づくりにはどれだけアンテナを張っているかが大事であると思う。地域コーディネーターのような人が増えないと、仲間を掘り起こすことは難しい。個人ではただの夢に終わる話も、仲間が集まれば何か生まれる。
- ・こずぎの大学、シブヤ大学といったようなものも仲間づくりのきっかけになるのではないか。参加者みんなが生徒であり、先生でもあるという仕組みから仲間づくりが、それ以上の活動につながっていくのかもしれない。名称はともかくそのような集まりがあっても良いと思う。やまゆりの活動とも同じかもしれない。

- ・区内の様々な活動や広報資料が知られていない。どうやってそれをPRしていくのかが問題である。
- ・各団体の活動状況を調査してみても良いのではないか。
- ・地域で仲間づくり活動をするための仕組みや仲間に入ってもらうキャッチフレーズの検討をしてみてもどうか。
- ・シニアや子育ての終わった専業主婦に地域社会への役割があることを認識してもらう工夫が必要ではないか。

(3) 第3回全体会議の資料について

- ・第3回全体会議資料についての説明、確認が行われた。その内容は以下の通りである。
- ・資料については、1. 審議の経過、2. 審議テーマ、3. 対象（担い手等の名称に変更予定）、4. 審議の方向性、5. 今後の進め方の構成とする。
- ・1～3については本日の議論で埋まることになる。4については、仲間づくりのハードルを下げている手法についての検討を進めていく。5については、4の意見を絞っていくという流れになる予定。

3. その他

- ・次回は審議の方向性について議論を深めるため、3月1日（水）午後3時に第4回専門部会を開催する。

以 上